

令和4年度
小規模多機能型居宅介護
陽だまりの里

サービス評価（外部評価）

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和4年11月17日

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 高田初枝・山田周司・木村龍登・志戸田由美子・小川君恵・相馬祐子・田野和良・武田浩幸・浜野晴紀・大竹悦子・佐々木久美子

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	2	7	0	1	11
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	4	6	1	0	11
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	4	7	0	0	11
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	6	5	0	0	11
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	5	4	2	0	11

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	
	・毎月のお便り配布の継続と配布地域のさらなる拡大 ・アセスメントシートを活用し担当職員が支援方法や検討など相談できる体制を作る
② 前回の改善計画に対する取組み結果	A:よくできている B:おおむねできている C:あまりできていない D:まったくできていない
	・お便りについては隔月の発行に変更となったが、特別号の発行等も行っている ・会議等での支援方法の検討を行っている
③ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できている点	
	・お便りの配布はできている ・新規、更新の利用者に関しては情報を共有できている ・スタッフ会議の事前打ち合わせ等で担当職員が支援内容を検討できるよう体制を整えている。
④ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できていない点	
	・配布地域の拡大はできていない ・アセスメントシートの更新作業が間に合っていない ・急な利用開始で情報が足りず共有が十分でないことがある ・ミーティングを簡素化して行うことがあり、伝達する情報の漏れがあり周知ができていないことがある

III. 現状の取組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
	・ケアプランの支援内容を十分に理解しておらず、意識を持った支援が出来ていない ・ミーティング等で情報の周知をし共有を行うが、全員に十分な理解と共有がなされていない ・業務が多忙でケアマネジャーの情報提供が間に合わないことがある ・スタッフ間で情報の共有が出来ている人もいるができていない人もいる

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

・ケアマネジャーと担当職員が連携し、アセスメントや支援内容の検討をしていく体制を整える

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和4年11月17日

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)

メンバー 高田初枝・山田周司・木村龍登・志戸田由美子・小川君恵・相馬祐子・田野和良・武田浩幸・浜野晴紀・大竹口悦子・佐々木久美子

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	2	6	2	1	11
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?	1	6	4	0	11
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	1	8	2	0	11
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	1	6	4	0	11
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	1	7	2	1	11

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	
・利用者の具体的な目標に対して、チームでその人に関わっていく	
② 前回の改善計画に対する取組み結果	A:よくできている B:おおむねできている C:あまりできていない D:まったくできていない
・年始に目標の書いてもらうなどして、目標の把握はできている	
③ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できている点	
・個別に目標が設定できており、それを把握できる利用者に関してはできている	
④ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できていない点	
・具体的な目標を設定できていない利用者がある ・チームでの関わりをどのように行えば良いかわからない	

III. 現状の取組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
・スタッフが個々のケアプランを把握できていないため、目標の理解が出来ていない	

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

・「～したい」を実現するために、ケアプランの見直しとそれに向けた関わり方の検討をしていく
--

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和4年11月17日

3. 日常生活の支援

メンバー 高田初枝・山田周司・木村龍登・志戸田由美子・小川君恵・相馬祐子・田野和良・武田浩幸・浜野晴紀・大竹口悦子・佐々木久美子

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	4	6	1	0	11
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?	1	5	5	0	11
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	6	4	1	0	11
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	2	7	2	0	11
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	8	2	1	0	11
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	6	4	1	0	11

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	
・報告、連絡、相談の徹底をする	
② 前回の改善計画に対する取組み結果	A:よくできている B:おおむねできている C:あまりできていない D:まったくできていない
・報告、連絡、相談をしやすい環境をある程度整えることができています	
③ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できている点	
・申し送り等で伝達をされており、その場にはいない職員には付箋で分かりやすくするなどして連絡している	
・以前に比べて報告、連絡、相談をしやすい環境になった	
④ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できていない点	
・報告や連絡が伝わっていないことが時々みられる	
・業務日報の特記事項に「ケース参照」と記載されることがあり、申し送りの際に伝わりにくいことがあり改善が必要ではないか	
・支援方法の変更が変更となった日にのみ書かれ、伝わりにくいことがあり支障がでることがある	

III. 現状の取組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
・新しい利用者の状態把握がすぐにできない	
・以前の暮らし方の全ては把握できていない	・個別に話を聞く時間をとることが出来ていない
・食事制限の有無に関わらず一緒に調理となるため工夫しても個々の体調に合わせての調理は難しい	
・本人の声にならない声や気持ちの変化に寄り添った支援をチームで共有し行うことが出来ていない	
・コロナ禍で外出企画等が行えず、少人数でのドライブなど行き気分転換をしていただくことも必要	

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

・一人一人に寄り添う支援を行えるよう、聞き取り出来た内容の共有に努める

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和4年11月17日
4. 地域での暮らしの支援	メンバー	高田初枝・山田周司・木村龍登・志戸田由美子・小川君恵・相馬祐子・田野和良・武田浩幸・浜野晴紀・大竹口悦子・佐々木久美子

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1	3	2	4	10
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?	2	4	5	0	11
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?	3	6	2	0	11
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	2	4	4	1	11
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	2	7	2	0	11

II. 前回の改善計画に対する取り組み状況

① 前回の改善計画	
・自治会の行事にすすんで参加し、地域の人や環境を知る	
② 前回の改善計画に対する取り組み結果	A:よくできている B:おおむねできている C:あまりできていない D:まったくできていない
・コロナ禍で地域の方々との関わりは少なかったが、オレンジカフェや防災訓練に参加していただくなどの交流をすることはできた	
③ 前回の改善計画に対する取り組み結果について、できている点	
・オレンジカフェや防災訓練への参加をしていただき交流することができた ・花壇の苗植えや資源回収への協力	
④ 前回の改善計画に対する取り組み結果について、できていない点	
・コロナ禍により地域の人や環境を知る機会を持つことが出来ていない ・地域の行事があっても、業務があり参加できないことがあった	

III. 現状の取り組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
・コロナ禍で遠足や外食、買い物などに行くことが難しい ・そもそも地域の資源を理解できていない ・自宅での生活の様子やこれまでの生活スタイル、人間関係を把握できない方もいる ・会話の中から生活スタイル等の聞き取りを行うことが不十分である	

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

・楽しみを持って暮らしていただけるよう、利用者や地域の方々との関わりを意識した支援に努める

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和4年11月17日

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 高田初枝・山田周司・木村龍登・志戸田由美子・小川君恵・相馬祐子・田野和良・武田浩幸・浜野晴紀・大竹口悦子・佐々木久美子

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	2	6		1	9
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか？	3	4	4		11
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか？	8	3			11
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか？	5	5	1		11
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか？	4	7			11

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	
	・家族との情報を共有し、利用者が住み慣れた地域での生活が継続できるよう気付きや変化を見逃さず支援していく。
② 前回の改善計画に対する取組み結果	A:よくできている B:おおむねできている C:あまりできていない D:まったくできていない
	・何かあった時はすぐにご家族に電話やお便り帳に記入をし、その都度、報告出来ている。
③ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できている点	
	・本人、ご家族の状況に応じて必要なサービスや支援が提供できている。 ・ ・
④ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できていない点	
	・利用者様の変化に気付いていないことや見逃している所もある。 ・送迎時不在なご家族、電話も繋がらないご家族もあり、情報交換が難しい場合もある。

III. 現状の取組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
	・地域の資源が理解できていない。 ・職員不足やコロナ禍で一人一人に合わせたレクや体操が出来ていない。 ・高齢化が進み地域の資源が難しくなっている。 ・ ・

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

・継続

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和4年11月17日

6. 連携・協働

メンバー 高田初枝・山田周司・木村龍登・志戸田由美子・小川君恵・相馬祐子・田野和良・武田浩幸・浜野晴紀・大竹口悦子・佐々木久美子

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	2	4	4	1	11
①	その他のサービス機関(医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所)との会議を行っていますか?	3	1	4	3	11
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?	3	1	0	7	11
③	地域の各種機関・団体(自治会、町内会、婦人会、消防団等)の活動やイベントに参加していますか?	2	2	1	6	11
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?	1	4	3	3	11

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	
	・地域の相談窓口として地域を知り、地域での困りごとなどを吸い上げていく体制作りをしていく
② 前回の改善計画に対する取組み結果	A:よくできている B:おおむねできている C:あまりできていない D:まったくできていない
	・コロナ禍で地域との関わりが難しく、相談を受け付ける体制の構築があまりできなかった
③ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できている点	
	・お便りやウェルカムボードで相談窓口としての機能を発信している。 ・陽だまり喫茶の開催等で困りごとの相談を受けることがあり、地域の相談がサービスにつながるケースがあった。
④ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できていない点	
	・陽だまり喫茶を月に1度開催しているが、特定の地域住民に絞られてきており、それ以上の発展がない。 ・コロナ禍で会議自体が中止になることが多く参加できていない。

III. 現状の取組みについて

I-①~④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
	・運営推進会議など陽だまりの里主催の会議には担当者が出席しているが、地域が主催の会議には参加していないため地域に対する見識が個人単位でも広がらない。

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

・地域における相談窓口のひとつとして、民生委員および地域の方々との連携に努める

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和4年11月17日

7. 運営

メンバー 高田初枝・山田周司・木村龍登・志戸田由美子・小川君恵・相馬祐子・田野和良・武田浩幸・浜野晴紀・大竹口悦子・佐々木久美子

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	3	7	0	0	10
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができますか?	3	7	1	0	11
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	3	8	0	0	11
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	4	5	2	0	11
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取り組みを行っていますか?	2	4	4	1	11

II. 前回の改善計画に対する取り組み状況

① 前回の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> ・会議には全員意識を持って参加し、意見するときは提案する形で行う 		
② 前回の改善計画に対する取り組み結果	A:よくできている D:まったくできていない	B:おおむねできている	C:あまりできていない
③ 前回の改善計画に対する取り組み結果について、できている点	<ul style="list-style-type: none"> ・意識を持って参加しており、発言も多く出ている。 ・会議ではスタッフの発言も多く、意見を出せるよう配慮されている。 ・事前に配布される資料を確認し、会議で検討している。 		
④ 前回の改善計画に対する取り組み結果について、できていない点	<ul style="list-style-type: none"> ・話にまとまりがなく長時間検討することが度々あり、特に夜勤や早番のスタッフの負担になっている。 ・会議ではなく講義のようになっている。 ・リーダー会議、スタッフ会議どちらにも参加していないと十分情報が伝わらないことがある。 		

III. 現状の取り組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none"> ・地域との協働や意見を反映した運営はできていない。 ・どのくらいの協力が必要か把握できていない。 	

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

<ul style="list-style-type: none"> ・会議には全員意識を持って参加し、意見するときは提案する形で行う(継続) ・理念や部門の目標を意識して日々の業務に努める

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和4年11月17日

8. 質を向上するための取組み

メンバー 高田初枝・山田周司・木村龍登・志戸田由美子・小川君恵・相馬祐子・田野和良・武田浩幸・浜野晴紀・大竹口悦子・佐々木久美子

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	4	7	0	0	11
①	研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	5	6	0	0	11
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	4	2	2	3	11
③	地域連絡会に参加していますか	3	1	0	7	11
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	2	9	0	0	11

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	
	・研修会にすすんで参加する ・ヒヤリハットで繰り返す事例については、職員全員に周知し意識づけを継続し改善後に評価をする
② 前回の改善計画に対する取組み結果	A:よくできている B:おおむねできている C:あまりできていない D:まったくできていない
	・積極的に内部研修へ参加。(出席率の増加) ・ヒヤリ・ハットの周知徹底による件数の減少。
③ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できている点	
	・内部研修に参加し、スキルアップに努めている。 ・ミーティングでの利用者状況の共有をし、チーム一丸でリスクマネジメントに努められている。 ・必要により社協内の研修だけでなく、外部の研修にも個人的に参加している。 ・
④ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できていない点	
	・新型コロナウイルス感染症の感染のリスクがある為、外部の研修への参加が難しい。 ・接遇の改善が見えず、職員の利用者への関わり方によりBPSD発現の恐れがある。 ・ヒヤリハット改善後の評価を実施できていない

III. 現状の取組みについて

I-①~④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
	・減少傾向にあるが、薬が落ちているなどヒヤリハットがなくならない。その要因が見守りの徹底がなされていないことにあると考えられる

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

・研修の積極的な参加と感染症対策の内部研修の実施をしていく ・ヒヤリハットで繰り返す事例については、職員全員に周知し意識づけを継続し改善後に評価をする(継続)
--

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和4年11月17日

9. 人権・プライバシー

メンバー 高田初枝・山田周司・木村龍登・志戸田由美子・小川君恵・相馬祐子・田野和良・武田浩幸・浜野晴紀・大竹口悦子・佐々木久美子

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	5	4	1	1	11
①	身体拘束をしていない	10	1	0	0	11
②	虐待は行われていない	10	1	0	0	11
③	プライバシーが守られている	6	3	2	0	11
④	必要な方に成年後見制度を活用している	7	2	1	1	11
⑤	適正な個人情報の管理ができています	6	5	0	0	11

II. 前回の改善計画に対する取り組み状況

① 前回の改善計画	
・スピーチロック(言葉での抑制)を意識して利用者と接する。	
② 前回の改善計画に対する取り組み結果	A:よくできている B:おおむねできている C:あまりできていない D:まったくできていない
・概ねできているが、不十分な部分もある	
③ 前回の改善計画に対する取り組み結果について、できている点	
・ ・	
④ 前回の改善計画に対する取り組み結果について、できていない点	
・敬語で話していない時がある ・少しきつい口調で利用者と接している人がいる ・スピーチロックに対する認識が薄い職員がいる ・研修等を通して、自分の何気ない声掛けの中にスピーチロックがあることが分かった	

III. 現状の取り組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
・自分では成年後見制度に関わる機会がなく、説明したことがない ・トイレの設備上、プライバシーをしっかりと守ることが難しいこともある ・利用者の個人情報を他の利用者に聞こえる状況で話していることがある ・薬の袋等、個人の特定できる物の処理が不十分なことがある ・	

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

・継続

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 本別町社会福祉協議会	代表者	会長 砂原 勝	法人・ 事業所 の特徴	本別町社会福祉協議会が運営する事業所。 本別町市街地からは離れた所に立地している。 地域住民の方々の理解と協力を得ながら運営しており、利用者の方々の住み慣れた地域 で生活していただくという考えのもと、地域密着型の介護保険事業所としてその機能を 担っている。
事業所名	仙美里小規模多機能型居 宅介護事業所 「陽だまりの里」	管理者	管理者 高田 初枝		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の改善計画を具体的に誰が見てもわかりやすい内容にする。全体会議で職員間で共有し、1カ月毎の一つ改善計画を取り上げ、計画的に達成又は評価できるように取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 部門の目標等の計画を見直し、わかりやすく取り組みやすい内容となり、全体会議や申し送りの中で共有することはできたが、毎月の達成状況の確認や評価は行うことができなかった。 		<ul style="list-style-type: none"> 事業所の改善計画を基に、実効性のある具体的な行動を起こせるよう、問題点や改善点を話しあう時間を作り、職員間の情報共有を図る。
B. 事業所の しつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 整理整頓、美化、衛生面を常に心がけ、快適な居場所と居心地の良い事業所作りを意識する。 通信環境が整ったことにより、事務作業の効率化が図られたことに加え、狭隘な事務室の環境に適應するため、タブレット等を活用し、書類のデジタル化を法人と連携を図りながら進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内の帳票類の整理、ファイリング等を行った結果、事務所内の環境改善ができた。 通信環境の整備を行ったことにより、タブレット端末等の ICT を活用した作業の円滑化を図っているが、デジタル化やペーパーレス化までは至っていない。 		<ul style="list-style-type: none"> 施設内だけでなく、車庫や倉庫の整理を行うことで事業所全体の環境改善を図る。 さらなる ICT の活用を推進できるよう、内部研修を行い、職員の理解を深めていき、ペーパーレス化、事業所の整理整頓を推進していく。
C. 事業所と地域の かかわり	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き相談体制について事業所だよりやウェルカムボードで周知を図っていく。 陽だまり喫茶など地域の方が気軽に来れるよう内容の検討を行っていくとともに、コロナ禍で陽だまり喫茶が開催できない場合を想定し、タブレット等を使った非接触での相談体制の在り方や、喫茶の実施の検討を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 陽だまり喫茶やオレンジカフェの開催やお便りの発行を通して相談体制の周知を行っている。 コロナ禍により陽だまり喫茶の開催を中止したこともあったが、今年度は概ね開催をできており、今後開催ができなくなる状況を想定し、状況に合わせた相談体制の検討を続けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設内に相談室等があるとよいのではないかと。 コロナ禍により地域の行事がない状態が続いており、利用者が地域行事に参加する機会がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き陽だまり喫茶やオレンジカフェを開催することで、地域の皆様とのつながりや相談体制を強化していく。 陽だまり便りの配布地域の拡大をすることにより、陽だまりの里をより多くの方々に知っていただき、地域との連携を強化していく。
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流がコロナ禍により行事等の参加が出来なくても、陽だまり便りでの事業所の取り組みを紹介し、地域へ現在の陽だまりの里の状況を伝え、地域とのつながりが途切れないよう広報活動に取り組んでいくとともに、SNS や LINE WORKS、法人ホームページを活用し、事業の実施状況、ご利用者個別の生活状況の発信を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 陽だまり便りの発行をし、地域の皆さんに参加していただけなかった事業所での行事や日常の様子をお知らせしている。 地域の民生委員さんを通じて、相談から実際にサービスへつながったケースもあり、今後も地域の皆さんと連携した支援の在り方について継続をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民から相談を受けた時に、陽だまりの里のサービスや介護サービスを受けたいと思っても、その手順がわからず、どこへ相談したらよいかもわからないという声があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 管理者やケアマネージャー等が地域を訪問する機会を増やし、サービスを直接説明したり、ちょっとした相談を受ける機会を増やしていく。 「体験会」等、事業所のサービスをお試しできる機会を設ける。 陽だまりの里を利用するメリットや楽しさを目に見える形（動画等）でアピールしていく。

<p>E. 運営推進会議を活かした取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進委員の方と情報共有を図り、事業所の取り組みや地域での困りごとについても共に協議・検討することで委員の皆様が事業所の状況や理解が深まるよう取り組み、地域に愛される施設を目指していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議は、感染対策を施しながら対面で開催するようにしており、委員の方が気軽に事業所を訪れることができない状況であっても、利用者及び事業所の状況を情報共有することができている。また、委員の皆様から地域の困りごとや気になる方に対する情報が出された時には、適切な機関やサービスに繋ぐことが出来ている。 コロナ禍により、委員の皆様が以前のように地域に積極的に出向く機会が減少しており、地域の状況を把握することが難しくなっていることを踏まえ、地域で気になる方の情報共有を密にし、事業所からも積極的にアウトリーチしていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の取り扱いに厳格さが求められており、相談へとなげることが難しいケースもある。 運営推進会議では、個別の事例の意見も出され検討されている。 陽だまりの里と自治会が連絡を取り合っているので連携ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に必要とされる施設を目指し、運営推進会議委員の皆様と支援の手が必要な方へと適切なサービスが届けられるよう、さらなる連携や情報共有を図っていく。 民生委員等から情報を受けた時などは、誰から情報を受けたかを伏せ、定期巡回の形をとって訪問したり、民生委員とともにケアマネージャーが訪問するなど、適切な対応を行う。
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 非常災害対策計画、業務継続計画（BCP）を運営推進会議委員の皆様へ周知、そしてともに協議していくことで、実践的な計画にしていく。また、その計画に基づき、まだ未実施である水害を想定した地域協働の避難訓練を計画する。 水害等の緊急時には、旧養護老人ホーム等の活用も視野に町と協議を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 作成が求められている、業務継続計画、非常災害対策計画、避難確保計画、消防計画を一体的に策定するために、他事業所と合わせ「災害時等業務継続計画策定委員会」を開催し、令和4年度中に策定できるよう進めている。 水害時の受入先、連携先についても計画に盛り込み、本年度中に各関係機関と打ち合わせの上、協定するよう進めている。 水害時の避難訓練については、策定した水害時避難訓練マニュアルにより令和5年度より行っていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 策定した業務継続計画の周知と、計画のさらなる充実を目指した協議を運営推進会議や地域の自治会の皆様と進めていく。また、計画に基づき、水害時の避難を含め、地域協働の災害時避難訓練を行っていく。

